

元気いっぱい、伸びやかに 一緒に歌うってこんなに楽しい！

障害者と健常者による「こころコンサート」が、いよいよ四月二十五日に開かれます。出演する皆さんは本番に向けて猛練習中です。今回は、県立大津養護学校(菊池郡大津町)と精神薄弱者更生施設精粹園(玉名郡菊水町)の二カ所での合同練習に参加させていただきました。特派員は小柴久美子さん(八代市出町)と松永祥子さん(鹿本郡植木町)です。

●合同練習が待ち遠しい

大津養護学校

大津養護学校の体育館に、生徒たちの叩く「大津養太鼓」の音が響き渡ります。大津町「エーデルワイス」と阿蘇郡一の宮町「コール・アモロソ」の皆さんが熱心に耳を傾けています。太鼓の演奏が終わると、全員で大きな輪を作り「握手でこんにちは」。歌いながら歩いて行き、出会った子どもと握手をするというダンスで、コーラスの方も子どもたちも見知った顔に出くわすとても嬉しそうです。

次はコンサートに向けての歌の練習。まず生徒たちが校歌を、続いてコーラスの皆さんが持ち歌を披露。最後に全員でテーマ曲「ユア ハンド マイ ハート」を合唱しました。

ここでの合同練習は、歌うだけでなく、ダンスや太鼓などで半日を楽しく過ごしています。「運動会や文化祭にも招待してもらったんですよ。運動会

では、わが子が走っているみたいにならハラドキドキ。とても楽しかった」とコーラスの皆さん。

●お互い「負けられないぞ」

精粹園

精粹園では「七城コーラス」との合同練習が行われていました。ここでは言語障害の矯正をするために、開園当初から音楽指導を積極的に実施。園生はピアノやタンバリン、鈴などの楽器を担当します。この日の曲は、皆さんの十八番、「川の流れるように」。コーラスの音量が負けてしまうくらい元気いっぱいです。「私たちが歌い始める時は少し小さくしてもらってよかったですか?」とコーラスの方がお話しすると、「はい。よかったです」と園生たちがちよっぴり威張った感じで答えました。二つのグループの息がピッタリ合った様子に、その場が柔らかな雰囲気になりました。

最後は本番さながらにテーマ曲の大



精粹園の皆さんの演奏に圧倒されてしまいました。

合唱です。ママさんコーラスに負けないくらい、園生もはつきりと伸びやかに歌います。「あんな風に歌えるまでには、普通なら三年かかるのを、皆さんのおかげで一年で」と青木楠事務長。素晴らしい歌声の陰には、職員の方々の努力もあるのです。曲に合わせて園生一人が自分たちで考えた振り付けで

踊り出しました。思わぬサーブイスに割れんばかりの大拍手。「音楽」は、言葉やいろいろな障害を越えて、喜びを表すことのできる手段です。「音楽」は障害者と健常者とのバリア(壁)も取り除きます。「こころコンサート」の種は芽を出し、今、大きく花開こうとしています。



「すぐに打ち解けてしまいました」と松永さん。

やさしい心のふれあいを熊本から

松永祥子さん

太鼓を叩く人。ピアノを弾く人。鍵盤をたどる指はぎこちなくても、皆いっしょうけんめいです。精粹園の皆さんの演奏に合わせて七城コーラスグループの皆さんが歌います。障害者と健常者、心を合わせた合奏は、私たちに泣き出したような感動を与えてくれます。練習場までの遠い道のりも苦にならないほど親しくなりました。この心のふれあいが、鈴木館長の意図とする「こころコンサート」の目的なのでしょう。この心が大きなうねりになって熊本を発ち、地球のすみずみまで広がっていくだろうと思います。



「久しぶりに快い緊張感が……」と小柴さん。

喜びと感動の波動が起った

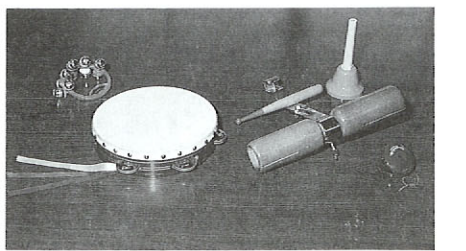
小柴久美子さん

大津養護学校は二組のママさんコーラスとパートナーを組みます。昨年六月から合同練習を重ねてこれたので、子どもたちと手をつないだり肩を組んだり…。仲睦まじい「親子コーラス」ができていました。私も子どもたちの底ぬけに明るい元気な声と、一生懸命な姿にどんどん引きこまれて、彼らの虜になってしまいました。「子どもたちが待っていると思えば阿蘇路をまっすぐに駆け抜けて来ます」と一の宮町の「コール・アモロソ」の皆さん。どうやら、「こころコンサート」は本番を待たずして喜びと感動の波動を起しているようです。



大津養護学校の

生徒さんの中に混って……



もっと福祉 シリーズ6

こころコンサート合同練習一日体験